

**【表紙】**

**【提出書類】** 四半期報告書

**【根拠条文】** 金融商品取引法第24条の4の7第1項

**【提出先】** 東海財務局長

**【提出日】** 平成25年4月12日

**【四半期会計期間】** 第33期第2四半期(自平成24年12月1日至平成25年2月28日)

**【会社名】** 株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス

**【英訳名】** AFC - HD AMS Life Science Co.,Ltd.

**【代表者の役職氏名】** 代表取締役社長 浅山 雄彦

**【本店の所在の場所】** 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

**【電話番号】** 054-281-0585(代表)

**【事務連絡者氏名】** 取締役社長室長 白鳥 弘之

**【最寄りの連絡場所】** 静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号

**【電話番号】** 054-281-5238(直通)

**【事務連絡者氏名】** 取締役社長室長 白鳥 弘之

**【縦覧に供する場所】** 株式会社大阪証券取引所  
(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第32期 第2四半期 連結累計期間	第33期 第2四半期 連結累計期間	第32期
会計期間		自 平成23年9月1日 至 平成24年2月29日	自 平成24年9月1日 至 平成25年2月28日	自 平成23年9月1日 至 平成24年8月31日
売上高	(千円)	7,457,247	7,278,575	14,794,674
経常利益	(千円)	324,069	441,921	673,908
四半期(当期)純利益	(千円)	199,440	240,885	569,044
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	205,738	290,829	570,189
純資産額	(千円)	5,544,357	6,051,176	5,849,209
総資産額	(千円)	17,424,158	17,129,621	17,472,874
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	16.73	20.24	47.74
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	31.8	35.3	33.5
営業活動による キャッシュ・フロー	(千円)	523,665	767,886	1,375,537
投資活動による キャッシュ・フロー	(千円)	280,349	281,216	508,680
財務活動による キャッシュ・フロー	(千円)	238,286	486,320	474,377
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(千円)	3,377,592	3,765,392	3,765,042

回次		第32期 第2四半期 連結会計期間	第33期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年12月1日 至 平成24年2月29日	自 平成24年12月1日 至 平成25年2月28日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	5.89	10.30

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の連結子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び当社の連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成24年9月1日～平成25年2月28日）におけるわが国経済は、震災復興需要を背景に回復の動きが緩やかに続いているほか、昨年12月に発足した新政権による経済財政運営への期待感から円安傾向、株価上昇など一部に明るい兆しも見え始めております。一方、欧州債務問題や中国をはじめとする新興国の経済成長の減速などもあり、先行きは不透明な状況で推移いたしました。

当社グループが属する健康食品市場は、高齢者人口の増加と、消費者の健康維持・増進、アンチエイジングに対する意識の高さから、今後とも潜在需要は引き続き順調に推移するものと思われます。しかしながら相次ぐ異業種大手企業の参入や、国内経済の長期低迷による消費マインドの低下などにより、生き残りをかけた企業間の競争は一層激しさを増し、厳しい環境となっております。

このような状況の下、当社グループはOEM部門において、来期以降を見据えた新規取引先の積極的開拓と並行して、営業力の強化・育成に注力したほか、直販部門においては他企業と連携した販売に取り組むなど、販路の拡大、事業の成長に努めました。

以上の結果、当第2四半期連結売上高は、OEM部門が堅調に推移したものの直販部門の苦戦により7,278百万円（前年同期比2.4%減）となりました。損益面については、効率的な広告宣伝活動により広告宣伝費が大幅に圧縮されたことや、減価償却費・のれん償却額の減少などにより、営業利益480百万円（前年同期比36.4%増）、経常利益441百万円（前年同期比36.4%増）となり、四半期純利益は240百万円（前年同期比20.8%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

#### ヘルスケア事業

##### ・OEM部門

主力事業である当部門は、既存取引先からの受注が堅調に推移し、売上高は前年同期比4.1%増となりました。好調商材は引き続き、マーケット動向と一致した関節、アイケア、美容、伝統素材となっております。加えて、リコピン商品もダイエット分野での需要の高まりを受けて伸ばいたしました。同部門では営業担当の人材育成も継続して行っており、中堅層に著しい成長が見られました。一方生産面においては、新たな受注獲得に向けゼリー充填機（液体粘体自動充填機）の導入準備を進めたほか、既存生産ラインの機械を拡充し、生産能力のアップ及び生産効率の向上に努めました。

##### ・海外部門

為替相場の円安傾向により市場の雰囲気は改善に向かっているものの、高額な関税や放射能汚染による検疫強化は続いており、また米国商品との競合など厳しい環境となっております。

そのような中、当部門は、シンガポールにおけるAFC代理店の伸長などにより売上高は前年同期比17.0%増となりました。引き続き、コラーゲンドリンクを主に、プラセンタ、美白商材など美容関連商品が好調に推移したほか、AFCブランドのルテイン、ブルーベリーも伸ばいたしました。

##### ・通信販売部門

昨年12月にリニューアルを行った「薬用シャンプー爽快柑」をメインに、TVショッピング・新聞広告を展開した結果、爽快柑シリーズ全体の売上は好調に推移いたしました。また、イベントにも積極的に出店し、ブランドの知名度向上と商品訴求に積極的に取り組みましたが、購入単価の低下などにより、売上を伸ばすまでには至りませんでした。

**・卸販売部門**

インターネットやTVショッピングなどの通販業向けの「ダイエットサプリ」、「爽快柑シャンプー」が伸ばしたほか、他社とのコラボレーション企画による販売が順調に進捗したものの、主要販売先である小売店向けの売上が苦戦し、当部門全体では減収となりました。

**・店舗販売部門**

百貨店店舗を販売拠点とする当部門は、物流拠点の集約や、店舗オペレーションの見直しなどコスト削減に努めたほか、風評被害による影響が大きい自然食品を中心とした不採算商品の整理を行い収益性の改善に注力いたしました。しかしながら、前述の商品改廃、また消費マインドの低迷が影響し、売上は前年同期を下回る結果となりました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高6,534百万円（前年同期比1.7%減）（セグメント間内部売上高含む）、営業利益660百万円（前年同期比20.7%増）（配賦不能営業費用控除前）となりました。

**医薬品事業**

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、主力の製造承認を取得した医療用漢方製剤40品目について、医師、薬剤師及び医薬品卸の営業担当者に対して、品質・安全性の確保に対する取り組みのほか、同業他社の製品と比べ効能効果の同等性が極めて高いこと及び患者さんの経済的負担（医療費の自己負担）が小さいことなどを説明してきました。また、一般用医薬品事業についても、新製品の投入、積極的な営業活動、及び販売促進活動などを行いました。

しかしながら、両事業とも同業他社との競争激化に加え、薬価改定による販売価格の低下の影響により、医薬品事業の売上高は744百万円（前年同期比7.9%減）となりました。一方損益面については、経費の節減効果により、営業利益44百万円（前年同期比58.6%増）となりました。

**(2) 財政状態の分析****流動資産**

当第2四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ264百万円減少し、8,060百万円となりました。この減少要因は主として、仕掛品が91百万円増加した反面、受取手形及び売掛金が297百万円、原材料及び貯蔵品が81百万円減少したことによるものであります。

**固定資産**

当第2四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ78百万円減少し、9,069百万円となりました。この減少要因は主として、投資その他の資産のその他が62百万円増加した反面、減価償却などにより有形固定資産が115百万円減少したことによるものであります。

**流動負債**

当第2四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ687百万円減少し、6,377百万円となりました。この減少要因は主として、未払法人税等が151百万円増加した反面、短期借入金が585百万円、支払手形及び買掛金が196百万円、流動負債のその他が54百万円減少したことによるものであります。

**固定負債**

当第2四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ141百万円増加し、4,701百万円となりました。この増加要因は主として、固定負債のその他が54百万円、社債が50百万円減少した反面、長期借入金が239百万円増加したことによるものであります。

**純資産**

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ201百万円増加し、6,051百万円となりました。この増加要因は主として、四半期純利益の計上により利益剰余金が181百万円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における連結ベースの現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、前連結会計年度末（3,765百万円）から微増の、3,765百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果得られた資金は767百万円（前年同期523百万円の収入）となりました。これは主として、仕入債務の減少額196百万円等により資金が減少した反面、税金等調整前四半期純利益432百万円、売上債権の減少額295百万円、減価償却費284百万円等により資金が増加したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は281百万円（前年同期280百万円の支出）となりました。これは主として、有形及び無形固定資産の取得による支出236百万円等により資金が減少したものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果使用した資金は486百万円（前年同期238百万円の支出）となりました。これは主として、長期借入れによる収入632百万円により資金が増加した反面、長期借入金の返済による支出965百万円、配当金の支払額60百万円等により資金が減少したことによるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は42,447千円であります。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	30,576,000
計	30,576,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成25年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年4月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	12,189,720	12,189,720	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株でありま す。
計	12,189,720	12,189,720		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年12月1日～ 平成25年2月28日		12,189,720		1,405,498		1,482,684

## (6) 【大株主の状況】

平成25年2月28日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
浅山 忠彦	静岡県静岡市駿河区	4,154,770	34.08
浅山 雄彦	静岡県静岡市駿河区	1,100,130	9.02
八木 麻衣子	静岡県静岡市葵区	535,500	4.39
浅山 麻里奈	静岡県静岡市駿河区	534,000	4.38
宝ホールディングス株式会社	京都府下京区四条通鳥丸東入長刀鉾町20	282,700	2.31
福地 千佳	静岡県静岡市駿河区	192,420	1.57
株式会社静岡銀行 (常任代理人日本マスタートラスト信託銀行株式会社)	静岡県静岡市葵区呉服町一丁目10番地 (東京都港区浜松町二丁目11番3号)	124,900	1.02
アムスライフサイエンス取引先 持株会	静岡県静岡市駿河区豊田三丁目6番36号	108,500	0.89
木内建設株式会社	静岡県静岡市駿河区国吉田一丁目7番37号	70,200	0.57
中西 豊	大阪府東大阪市	67,000	0.54
計		7,170,120	58.77

(注) 上記のほか当社所有の自己株式311,739株(2.55%)があります。

## (7) 【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成25年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 311,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,877,500	118,775	
単元未満株式	普通株式 520		
発行済株式総数	12,189,720		
総株主の議決権		118,775	

## 【自己株式等】

平成25年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社AFC - HD アムスライフサイエンス	静岡県静岡市駿河区 豊田三丁目6番36号	311,700		311,700	2.55
計		311,700		311,700	2.55

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年12月1日から平成25年2月28日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年9月1日から平成25年2月28日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,054,042	4,102,392
受取手形及び売掛金	2,038,597	1,740,988
商品及び製品	910,225	900,344
仕掛品	523,523	615,495
原材料及び貯蔵品	631,038	549,142
その他	220,547	203,464
貸倒引当金	53,459	51,685
流動資産合計	8,324,515	8,060,142
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,444,718	3,332,743
土地	3,784,329	3,787,700
その他(純額)	1,128,162	1,121,219
有形固定資産合計	8,357,210	8,241,663
無形固定資産		
のれん	26,255	7,652
その他	65,677	58,617
無形固定資産合計	91,932	66,270
投資その他の資産		
その他	706,736	769,073
貸倒引当金	7,521	7,528
投資その他の資産合計	699,215	761,544
固定資産合計	9,148,358	9,069,478
資産合計	17,472,874	17,129,621
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,601,859	1,405,089
短期借入金	4,381,446	3,795,695
未払法人税等	65,291	216,485
賞与引当金	95,000	95,000
ポイント引当金	53,000	52,000
その他	867,566	812,734
流動負債合計	7,064,163	6,377,004
固定負債		
社債	550,000	500,000
長期借入金	2,667,283	2,906,360
役員退職慰労引当金	343,810	341,642
退職給付引当金	163,727	173,209

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
負ののれん	5,069	4,787
その他	829,610	775,439
固定負債合計	4,559,501	4,701,440
負債合計	11,623,665	11,078,445
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,405,498	1,405,498
資本剰余金	1,482,684	1,482,684
利益剰余金	3,219,468	3,400,754
自己株式	198,961	228,223
株主資本合計	5,908,690	6,060,713
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	59,481	9,537
その他の包括利益累計額合計	59,481	9,537
純資産合計	5,849,209	6,051,176
負債純資産合計	17,472,874	17,129,621

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
売上高	7,457,247	7,278,575
売上原価	5,036,015	4,963,068
売上総利益	2,421,231	2,315,506
販売費及び一般管理費	2,068,758	1,834,909
営業利益	352,473	480,597
営業外収益		
受取利息	215	231
受取配当金	1,793	5,571
負ののれん償却額	15,817	281
助成金収入	10,434	11,831
貸倒引当金戻入額	6,413	-
その他	12,419	15,022
営業外収益合計	47,094	32,938
営業外費用		
支払利息	72,251	65,152
その他	3,247	6,461
営業外費用合計	75,498	71,614
経常利益	324,069	441,921
特別利益		
有価証券償還益	1,730	-
特別利益合計	1,730	-
特別損失		
固定資産除却損	3,071	3,598
減損損失	-	5,861
特別損失合計	3,071	9,459
税金等調整前四半期純利益	322,728	432,461
法人税、住民税及び事業税	123,257	205,241
法人税等調整額	30	13,665
法人税等合計	123,287	191,576
少数株主損益調整前四半期純利益	199,440	240,885
四半期純利益	199,440	240,885

【四半期連結包括利益計算書】  
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益	199,440	240,885
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	6,297	49,943
その他の包括利益合計	6,297	49,943
四半期包括利益	205,738	290,829
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	205,738	290,829
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	322,728	432,461
減価償却費	326,505	284,708
のれん償却額	26,122	18,321
賞与引当金の増減額(は減少)	26,100	-
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	3,098	2,167
受取利息及び受取配当金	2,009	5,802
支払利息	72,251	65,152
有価証券償還損益(は益)	1,730	-
固定資産除却損	3,071	3,598
減損損失	-	5,861
売上債権の増減額(は増加)	242,600	295,799
たな卸資産の増減額(は増加)	244,267	194
仕入債務の増減額(は減少)	76,859	196,769
未払消費税等の増減額(は減少)	51,425	9,061
その他	29,757	37,415
小計	778,794	854,491
利息及び配当金の受取額	1,982	5,785
利息の支払額	40,346	64,832
法人税等の支払額	213,765	27,558
その他	3,000	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	523,665	767,886
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の償還による収入	57,440	-
有形及び無形固定資産の取得による支出	304,674	236,049
有形及び無形固定資産の売却による収入	-	316
投資有価証券の取得による支出	35	37
投資有価証券の売却による収入	-	197
貸付金の回収による収入	1,405	149
その他	34,486	45,792
投資活動によるキャッシュ・フロー	280,349	281,216
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	64,800	12,998
長期借入れによる収入	-	632,000
長期借入金の返済による支出	134,780	965,676
自己株式の取得による支出	30	29,603
配当金の支払額	118,275	60,042
その他	50,000	50,000
財務活動によるキャッシュ・フロー	238,286	486,320
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	5,029	350
現金及び現金同等物の期首残高	3,372,563	3,765,042
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,377,592	3,765,392

## 【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年2月28日)
受取手形割引高	115,982千円	120,246千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費の主なもの

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
広告宣伝費	386,882千円	254,549千円
給料手当	667,572千円	626,431千円
賞与引当金繰入額	76,274千円	39,779千円
退職給付引当金繰入額	9,013千円	8,118千円
役員退職慰労引当金繰入額	6,098千円	3,052千円
貸倒引当金繰入額		1,276千円
ポイント引当金繰入額	11,181千円	16,110千円
のれん償却額	41,939千円	18,602千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
現金及び預金勘定	3,750,592千円	4,102,392千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金等	373,000千円	337,000千円
現金及び現金同等物	3,377,592千円	3,765,392千円

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成24年2月29日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月25日 定時株主総会	普通株式	119,200	100	平成23年8月31日	平成23年11月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年4月9日 取締役会	普通株式	59,599	5	平成24年2月29日	平成24年5月28日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成25年2月28日)

## 1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月27日 定時株主総会	普通株式	59,599	5	平成24年8月31日	平成24年11月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年4月9日 取締役会	普通株式	59,389	5	平成25年2月28日	平成25年5月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成23年9月1日至平成24年2月29日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	6,648,942	808,304	7,457,247
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	6,648,942	808,304	7,457,247
セグメント利益	547,563	27,799	575,362

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の  
  主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	575,362
全社費用(注)	222,889
四半期連結損益計算書の営業利益	352,473

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成24年9月1日至平成25年2月28日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	6,534,462	744,113	7,278,575
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	-	-
計	6,534,462	744,113	7,278,575
セグメント利益	660,801	44,094	704,895

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	704,895
全社費用(注)	224,298
四半期連結損益計算書の営業利益	480,597

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年9月1日 至平成24年2月29日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年9月1日 至平成25年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額	16円73銭	20円24銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	199,440	240,885
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	199,440	240,885
普通株式の期中平均株式数(株)	11,919,998	11,902,875

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2【その他】

第33期(平成24年9月1日から平成25年8月31日まで)中間配当については、平成25年4月9日開催の取締役会において、平成25年2月28日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

中間配当金の総額	59,389千円
1株当たりの中間配当金額	5円00銭
支払請求の効力発生日及び支払開始日	平成25年5月27日

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 4月10日

株式会社AFC - HDアムスライフサイエンス  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 向 眞生

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大須賀 壮人

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社AFC-HDアムスライフサイエンスの平成24年9月1日から平成25年8月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成24年12月1日から平成25年2月28日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成24年9月1日から平成25年2月28日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス及び連結子会社の平成25年2月28日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。